

賃貸住宅における省CO2促進モデル事業(国土交通省連携事業)

平成28年度予算(案) 2,000百万円(新規)

背景・目的

- 2030年の削減目標達成のためには、家庭部門からCO2排出量 を約4割削減しなければならない。
- 個々の住宅の低炭素化の技術は確立し、大手住宅メーカーによる販売住宅ではゼロエネルギーハウスの展開も進んでいる。
- 一方で、新規着工件数の約4割を占める賃貸住宅では、低炭素 価値が評価されておらず、賃料アップや入居者獲得につながら ないため、省CO2型の住宅の供給、市場展開が遅れている。
- そこで、市場への省CO2性能に優れた賃貸住宅の供給促進と、市場において低炭素価値が評価されるための普及啓発を一体的に行い、賃貸市場を低炭素化する必要がある。

事業スキーム

補助対象 : 非営利法人 補助割合: 定額間接補助対象:賃貸住宅を建築・管理する者補助率 : ①1/2(上限額:60万円/戸)②1/3(上限額:30万円/戸)

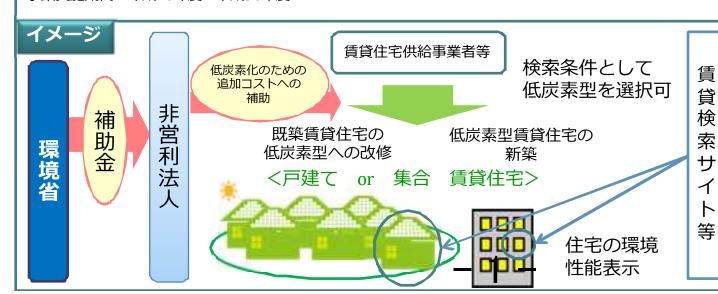
事業実施期間:平成28年度~平成30年度

事業概要

- 賃貸住宅について、一定の断熱性能を満たし、かつ住宅の省工ネ基準よりも ①20%以上(再工ネ自家消費算入可)若しくは②10%以上(再工ネ自家消費 算入不可)CO2排出量が少ない賃貸住宅を新築、又は同基準を達成するよう に既築住宅を改修する場合に、追加的に必要となる給湯、空調、照明設備等 の高効率化のために要する費用の一部を補助する。
- 本事業を活用して新築・改修された賃貸住宅については、住宅の環境性能の表示や、インターネット等を活用した効果の普及やPRを行うこととする。
- さらに、本事業と並行して、賃貸住宅の紹介・あっせんを行っている事業者と連携し、賃貸住宅の検索時に、低炭素型であることをメルクマールとした検索を可能とすることで、市場全体の低炭素化を官民連携で行う。

期待される効果

- 家庭部門のCO2削減目標達成のため、賃貸住宅市場において省エネ基準より も10%以上の省エネを達成
- 省工ネ性能表示や「環境性能」の検索条件の整備と普及啓発を一体的に行い、 低炭素型賃貸住宅を選好する機運を高め、自発的な賃貸住宅市場展開を図る。
- 賃貸住宅市場の低炭素化の端緒を開き、家庭部門のCO2を大幅削減する。







賃貸市場における低炭素型 住宅の供給と普及啓発の 一体的実施により、

賃貸住宅からの CO2大幅削減